

ライチのハダニに対する果樹類登録剤の防除効果 および樹体への影響

果樹類登録剤で効果が高い剤があるが、一部薬剤では落葉を助長することがある

背景・目的

- ライチではハダニが発生しますが、登録薬剤が少ない状況にあります。
- そこで、果樹類に登録がある薬剤の防除効果および樹体に対する影響を検討しました。

成果の内容

- 成虫には還元澱粉糖化物液剤100倍、水和硫黄剤300倍およびデンブン水和剤500倍の2回散布はかなり高い防除効果が期待できます（表1）。
- 既知の情報を含め気門封鎖剤のハダニに対する殺卵効果は期待できません（表2）。
- 薬剤散布後に落葉が目立つ剤があり、還元澱粉糖化物液剤100倍はかなり多く、次いでデンブン水和剤500倍が多い傾向にあります（図1）。

表1 成虫に対する防除効果

区	供試薬剤	処理濃度 (倍)	反復	成虫数					落葉
				4/30 (処理前)	5/1 (1回目処理1日後)	5/3 (1回目処理3日後)	5/7 (1回目処理7日後)	5/11 (2回目処理3日後)	
1	還元澱粉糖化物液剤 (エコビタ液剤)	100	I	77	13	7	4	0	+
			II	29	4	4	0	-	+
			III	40	2	1	3	0	
			IV	19	3	1	1	0	+
			平均	41.3	5.5	3.3	2.0	0.0	
補正密度指数				15.8	7.6	8.4	0.0		
2	水和硫黄剤 (クムラス)	300	I	70	36	14	2	0	
			II	23	2	1	0	0	
			III	43	17	5	8	3	
			IV	42	12	5	5	0	+
			平均	44.5	16.8	6.3	3.8	0.8	
補正密度指数				44.5	13.6	14.7	2.1		
3	デンブン水和剤 (粘着くん水和剤)	500	I	64	5	0	0	1	
			II	39	2	2	3	0	
			III	42	2	9	3	7	
			IV	18	8	4	0	0	+
			平均	40.8	4.3	3.8	1.5	2.0	
補正密度指数				12.3	8.9	6.4	6.2		
4	アロレング リコ-酸/脂肪酸エステル アカリタッチ	2000	I	33	9	6	10	0	
			II	20	8	6	4	4	
			III	150	39	38	28	34	
			IV	11	3	3	1	2	
			平均	53.5	14.8	13.3	10.8	10.0	
補正密度指数				32.6	24.0	35.0	23.5		
5	無処理	-	I	42	40	63	40	65	
			II	55	45	50	28	26	
			III	30	29	49	22	32	
			IV	54	39	25	14	21	
			平均	45.3	38.3	46.8	26.0	36.0	
補正密度指数				100	100	100	100		

注1) 成虫数の一は、調査薬剤が20枚に満たなかったものを示し、落葉の+は落葉発生を示す。
注2) 薬剤散布は、1回目4月30日、2回目5月8日

表2 薬液への卵浸漬処理10日後の孵化率

供試薬剤	処理濃度 (倍)	接種成虫数	産下卵数	未孵化卵数	孵化率(%)	無処理比
還元澱粉糖化物液剤 (エコビタ液剤)	100	48	50	9	82.0	101.8
水和硫黄剤 (クムラス)	300	48	44	19	56.8	70.5
デンブン水和剤 (粘着くん水和剤)	500	48	42	15	64.3	79.8
アロレング リコ-酸/脂肪酸エステル アカリタッチ	2000	48	49	21	57.1	70.9
無処理	-	48	36	7	80.6	100

注1) 放飼虫数、供試卵数、未孵化卵数は4反復の合計値
注2) 孵化率 = (供試卵数 - 未孵化卵数) / 供試卵数 × 100

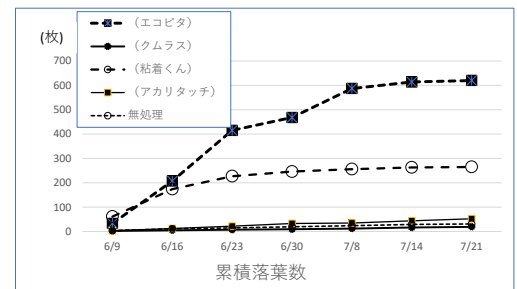


図1 薬剤散布後の累積落葉数

成果の活用方法(又は期待される効果)

- ライチのハダニ防除において果樹登録薬剤の選択および使用上の参考となります。
- 普及対象地域・面積 ライチ栽培地域

留意点

- 落葉は古葉のみで発生し、新葉の落葉はありません。
- ハダニは被害葉の形状、形態等からコウノアケハダニと考えられます（図2）。

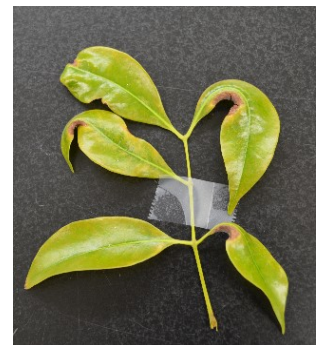


図2 ハダニによる新葉の被害